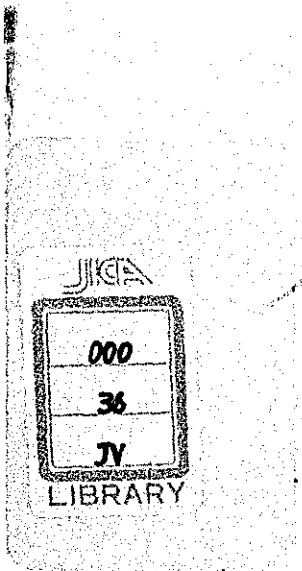


日本青年海外協力隊

◇ 資 料 ◇

昭和42年9月30日現在



日本青年海外協力隊
事 務 局

目 次

1. 日本青年海外協力隊事業概観	1
2. 日本青年海外協力隊派遣状況	3
3. 日本青年海外協力隊派遣実績表	5
4. 派遣隊員国別・業種別表	6
5. 出身県別・業種別隊員派遣実績表	10
6. 派遣隊員学歴別・年令別表	12
7. 派遣国別・業種・人員・業務内容一覧表	14
8. 派遣隊員業種区分表	20
9. ち す び	21

JICA LIBRARY



1018762[3]

国際協力事業団

受入 月日	'84. 5. 22	10.00
		13.6
登録No.	06732	J.V

いて決定した「日本青年海外協力隊の派遣に関する取極」に関する日本政府の原案に基づき、日本政府と受入国政府との間に2国間協定を締結し両国政府の立場を明確に規定し実施されている。

(3) 現 状

協力隊員の派遣分野は現在「稲作指導からテレタイプ操作」にまで及び業種の多岐にわたることが注目される。これは派遣された隊員の挙げた成果により、より多くの協力を要請してきたものであり、事務局はこうした受入国の要請に沿い得る有能な隊員を派遣するために、広く官民関係機関と緊密な連携を保ち、その積極的協力を得るとともに隊員が円滑に任務を遂行できるよう「日本青年海外協力隊全国協議会」、「各省懇談会」を設け、選考に際しては正しい評価を行うために官民各分野の代表者からなる「選考委員会」を設け、公平を期している。さらに「協力隊後援会」、「隊員家族会」を設け本事業があくまでも国民大衆とともにある国家事業として血の通ったものに発展させることを目ざしている。

現在隊員志願者は2,000名に及び、業種別に登録されている。

182名の隊員はそれぞれ自己の任務を自覚して黙々と努力を続けており、1名の落伍者も出ていない事は、隊員各自の努力もさることながら、広く一般より共感を得て盛り上った国民の支援の声が隊員各自に大きな力となってあらわれている。

(4) 42年度計画

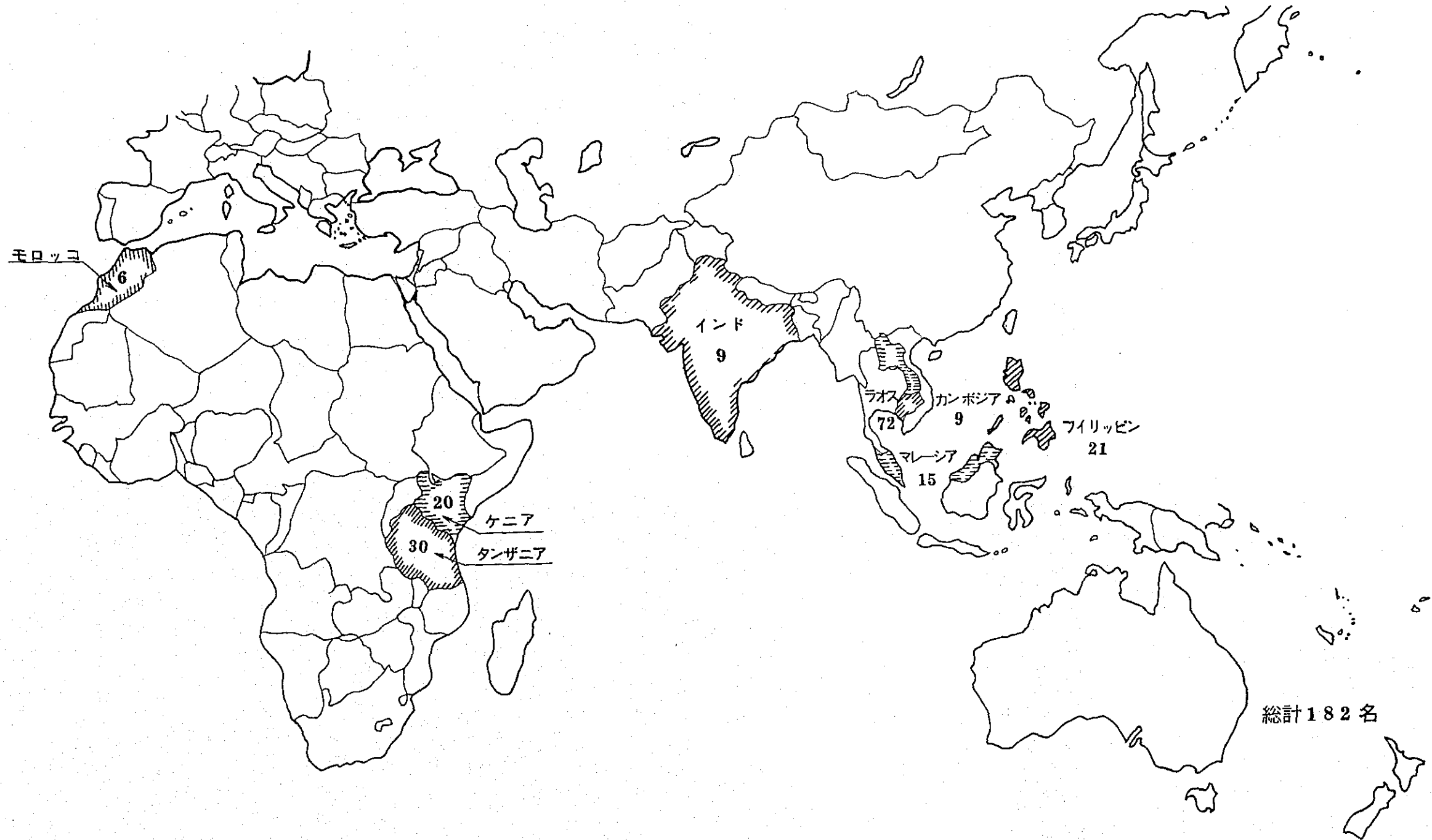
昭和42年度は事業費39,364万円が計上され、派遣人員については、継続分151名、新規派遣分210名を計画している。

又、本事業も三年目を迎え、基礎づくりの完成を計るべく、(1)「協力隊センター」を建設し、隊員により充実した訓練を行うほか、(2)「海外駐在員」をフィリッピン・ラオス・タンザニアに派遣し、41年度に設置したマレーシア海外事務所を加え4カ国に駐在員を派遣し隊員の直接指導に当らしめると共に、特に隊員の健康管理に力を注ぐ計画であります。

なお、本年末には第1次派遣隊員が任務を終了して帰国する予定であり、その受入体制には万全を期する方針である。

2. 日本青年海外協力隊派遣状況

昭和42年9月30日現在



1. 日本青年海外協力隊事業概観

(1) 目 的

日本青年海外協力隊はアジア・アフリカ等開発途上にある国々からの要請に基づき、政府事業として実践的分野の技術又は技能を身につけた心身ともに健全な日本青年をその地に派遣し、受入国の人々と生活と労働をともにしながら、その国の経済的・社会的開発に協力し、両国民の相互理解と友好のきずなを強め、あわせてわが国青年の広い国際的視野の涵養に寄与せしめるといふ主旨のもとに発足した政府の海外協力計画であります。

また、任期を終えて帰国した隊員達は現地生活で得た貴重な体験を活かし、国内の青年社会において青年の中核として、わが国の発展に大きく貢献するものと期待され、また、現地における隊員の活躍は国内にある青年に大きな社会奉仕の夢を与え、自立精神の一助となり得ることを期待しています。

(2) 経 過

相手国政府との合意に基づいて実施されるこの国家事業は、昭和40年度より実施機関として日本青年海外協力隊事務局が海外技術協力事業団に設置された。

初年度（昭和40年度）は、総額7,679万円の予算で発足し、同年9月一般公募による応募者の選考を行ない、10月より合格者を隊員候補生として派遣前訓練を実施し、12月末第1隊員26名が、ラオス・カンボジア・マレーシャ・フィリッピンにそれぞれ赴任しました。

第2次派遣は3月下旬に新たにケニアを加え22名が派遣された。

昭和41年度は17,600万円の予算で実施し、103名が前記5ヶ国の他にインド・タンザニアを加えた合計7カ国に3回に渡って派遣された。昭和42年度については約210名の隊員派遣を計画しているが、その第1次隊員32名が9月にモロッコ、ケニア、ラオス、フィリピン、マレーシアの各国に赴任、第2次派遣計画としては、66名の隊員候補生について3カ月間の派遣前訓練を実施している。昭和42年9月30日現在、派遣隊員は総計183名（内1名は9月に帰国）に達している。

これら協力隊員の派遣については、昭和40年10月15日の閣議にお

3. 日本青年海外協力隊派遣実績表

昭和42年9月30日現在

派遣年度 派遣国名	昭和40年度			昭和41年度			昭和42年度		総計	
	1次	2次	計	1次	2次	3次	計	1次		帰国隊員
アジア地域	カンボジア	4	5	9						9
	インド				9 (7)			9 (7)		9 (7)
	ラオス	5 (2)	5	10 (2)	17 (1)	9	19 (1)	45 (2)	17	72 (4)
	マレーシア	5 (2)	8 (1)	13 (3)	2			2	1	15 (3)
	フィリピン	12	1	13			6	6	2	21
アフリカ地域	ケニヤ		3	3	3	3	5 (1)	11 (1)	6	20 (1)
	モロッコ								6	6
	タンザニア					30 (24)		30 (24)		30 (24)
計	26 (4)	22 (1)	48 (5)	31 (8)	42 (24)	30 (2)	103 (34)	32	1	182 (39)

()内は女性隊員内訳数

4. 派遣隊員国別・業種別表

昭和42年9月30日現在

派遣国	業種											
	稲作	野菜栽培	果樹蔬菜	農業機械	獣医	畜産	養蚕	土壌開発	灌漑	圃場管理	飼料	農地測量
アジア地域	フィリピン	2	1	2			3					
	マレーシア		2		1							
	ラオス	3	4	4	2	2	6	1	1	2		3
	カンボジア	2			2					1		
	インド											
アフリカ地域	ケニア											2
	モロッコ	1					1					
	タンザニア			6								
小計	8	7	12	5	2	6	4	1	2	1	3	2

水産										鉱工業					
椎茸栽培	農業協同組合	農業普及	林業	漁業	水産加工	淡水養魚	食肉検査	漁業統計	小計	鉱物分析	竹細工	窯業	電気	工作機械	小計
2	2		3						15		2	1			3
		4		2					9						
						1	2		31	2	2	1			5
			2						7						
					3	1		1	7				1	1	2
									2						
									6						
2	2	4	5	5	1	1	2	1	77	2	4	2	1	1	10

()内は女性隊員内訳数

業種	派遣国	交通通信				土木建設						
		自動車整備	電話	ラジオ送信	テレタイプ	小計	測量	水道管敷設	建築	土木	建設機械	都市計画
アジア地域	フィリピン								3			
	マレーシア											
	ラオス		4	3	1	8	9	5	4		2	
	カンボジア											
	インド	2				2						
アフリカ地域	ケニア	7				7				2		
	モロッコ					3			1			
	タンザニア											
小計		9	4	3	1	17	12	5	4	4	2	2

小計	保健・衛生				教育訓練								総計	
	医師	看護婦	栄養士	小計	日本語教育	数学教育	司書	体育	柔道	水泳	家政	洋裁		小計
3														21
					2 (2)	1 (1)		2		1			6 (3)	15 (3)
20	1			1	3 (3)			2	1		1 (1)		7 (4)	72 (4)
									1	1			2	9
		5 (5)	2 (2)	7 (7)										9 (7)
2								1 (1)	1				2 (1)	20 (1)
4														6
													24 (24)	24 (24)
29	1	5 (5)	2 (2)	8 (7)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	5	2	2	1 (1)	24 (24)	41 (32)	182 (39)

()内は女性隊員内訳数

5. 出身県別・業種別・隊員派遣実績表

出身県	農水 林産	鉱工業	交通 通信	土木 建設	保健 衛生	教育 訓練	計
北海道	3		2	5			11
青森	1					1 (1)	2 (1)
岩手	3		1				4
秋田	4						4
山形	3		1				4
宮城	1		1				2
福島	3	1		1	1 (1)	1	7 (1)
群馬	5		1	2			8
栃木			1			1 (1)	2 (1)
茨城				1	1 (1)	1 (1)	3 (2)
埼玉	1	1					2
東京	5	2	3	4		14 (12)	28 (12)
千葉					1 (1)		1 (1)
神奈川	4			1		3 (3)	8 (3)
山梨						1 (1)	1 (1)
新潟						1	1
富山	1			1			2
岐阜					1 (1)	1 (1)	2 (2)
長野	3	1		1	1 (1)		6 (1)
静岡			1	3		1	5
愛知	2	2				3 (3)	7 (3)
石川	1						1
福井	1			2			3
滋賀	1						1
三重	2					1 (1)	3 (1)

昭和42年9月30日現在

出身県	農水 林産	鉱工業	交通 通信	土木 建設	保健 衛生	教育 訓練	計
京都							0
奈良							0
和歌山			1				1
大阪	1		1			3 (3)	5 (3)
兵庫	1		1	4		1 (1)	7 (1)
鳥取							0
島根	4					1 (1)	5 (1)
岡山	3			1			4
広島	5					1	6
山口						1 (1)	1 (1)
香川			1				1
徳島							0
高知	1		1			1	3
愛媛		1	1	1		1	4
福岡	4	1					5
佐賀							0
長崎					2 (2)		2 (2)
熊本	7					1 (1)	8 (1)
大分	1	1					2
宮崎	5						5
鹿児島	1			2		2 (1)	5 (1)
合計	77	10	17	29	8 (7)	41 (32)	182 (39)

()は女性隊員内訳数
※ 出身県は本籍地とする

6. 派遣隊員學歷別・年令別表

昭和42年9月30日現在

学 歴

中 学 校 卒	高 等 学 校 卒	専 門 学 校, 養 成 所, 訓 練 所 卒
2	38	37 (20)

短 期 大 学	大 学 卒	大 学 院 卒	計
14 (8)	87 (10)	4 (1)	182 (39)

()内は女性内訳数

年 令 別

20	21	22	23	24	25	26
3	9 (2)	19 (3)	23 (7)	30 (3)	28 (6)	23 (4)

27	28	29	30	31	33	34	41	計
18 (3)	6 (3)	13 (5)	3 (1)	2	3	1 (1)	1 (1)	182 (39)

()内は女性内訳数

※ 年令は派遣時点とする

年 令 平 均

25.1才

男 — 24.9才

女 — 25.8才

7. 派遣国別・業種・人員・業務内容一覧表

昭和42年9月30日現在
()内は女性隊員内訳数

国名	業種	人員	勤務先
カンボジア 9名	稲作	2	農林省農務局バットバン農業センター
	農業機械	2	〃
	圃場管理	1	農林省農務局コンボンチャム畜産センター
	木材伐採	2	林野庁, 日・カ木材伐採合弁会社
	水泳	1	中央競技場
	柔道	1	国立競技場附設
インド 9名	自動車整備	2	A・P州保健省, 保健運輸局
	栄養士	2(2)	中央政府保健局農村保健指導センター
	看護婦	5(5)	ラージャスターン州医療保険局, U・P州
ラオス 72名	稲作	3	農業局, サラカム稲作試験所 日・ラオ農牧実習センター
	野菜栽培	4	農業局, 菜園農場
	果樹蔬菜	4	日・ラオ農牧実習センター
	農業機械	2	〃
	獣医	2	畜産局, ヴイエンチャン畜産試験所
	畜産	6	〃
	養蚕	1	日・ラオ農牧実習センター
	土壌開発	1	〃
	灌漑	2	〃
	飼料	3	ドントック及びサバナケット畜産試験場
	淡水養魚	1	日・ラオ農牧実習センター
	食肉検査	2	ヴイエンチャン経済省畜産局
	鉱物分析	2	計画協力省鉱山局, ヴイエンチャン鉱物試験場
	竹細工	2	文部省, ヴイエンチャン工芸学校
	窯業	1	〃 美術学校
	電話	4	郵政省郵便通信局, ヴイエンチャン電話局

業務内容
農業センターにて稲の栽培技術指導
農業センターにて農業機械の操作・維持を行なう。
畜産センターにて飼料圃場の管理
コンボンソム湾周辺の森林調査および製材
国民皆泳運動による水泳指導
警察, 官吏・学生等の指導
ハイデラバードにおける自動車, シープ等の修理, 維持指導
ニューデリーの大学存び保健指導センターにおける食生活の改善指導
ジャイプールおよびラクノウの病院に配置され家族計画の巡回指導を行なう。
稲作試験場にて稲作の技術指導
稲の栽培一般及び病虫害防除並びに熱帯稲作の指導
菜園農場にて野菜の技術指導, ヴイエンチャン市周辺にて実地指導及びその普及
蔬菜全般及びメロン, イチゴ, 洋菜類の栽培指導及び熱帯果樹の実地栽培指導
小型農機具及びトラクター, ブルドーザーの運転, 修理指導
畜産試験場において, 繁殖器障害の治療, 家畜病理の研究と指導
畜産試験場において養鶏, 養豚技術指導及び肉牛改良, 病疫予防, 人工受精の指導
桑栽培, 養蚕技術全般につき, ヴイエンチャン周辺農家の指導
土壌開発に従事
灌漑施設の設計, 施工
トウモロコシを中心とする各種飼料, 作物, 牧草類の栽培指導及び飼料作物, 豚及び家禽用飼料の配分等の指導
ヴイエンチャン市周辺の養魚池の基礎調査, 養魚指導, タゴン地区に模範養魚場の設置設計
ヴイエンチャン市内にて食肉の検査並びに畜産局の食肉検査要員の指導
ラオス全土より集められる鉱物の分析研究及びノンスン所在の半官半民の錫鉱山開発公社に勤務
ラオスに産出する竹を活用, 手工芸的, 実用的製品の製作指導
陶器製造の指導, 近郊の巡回指導
ヴイエンチャン市内の電話回線の補修, 管理

国名	業種	人員	勤務先
ラオス 72名	ラジオ送信	3	情報局
	テレタイプ	1	〃
	都市計画	2	公共事業運輸省公共事業部
	測量	9	〃
	水道	2	経済省, ヱエンチャン水道公社
	水道管敷設	3	〃
	建築	2	公共事業運輸省公共事業部
	医療(外科)	1	保健省, サバナケット国立病院
	日本語	3(3)	文部省師範学校・技術学校
	柔道	1	文部省青年体育局
	家政	1(1)	〃 ヱエンチャン家政学校
マレーシア 15名	体育	2	〃 体育局, 体育養成センター
	野菜栽培	2	農業省セルダン農業学校
	農業機械	1	農業省セルダン農業機械化訓練センター
	農業普及	4	サバ州農業協同組合省所属農業試験場
	漁具漁法	2	農業省水産局所属海洋水産学校
	日本語	2(2)	文部省, マラヤ大学
	数学教育	1(1)	農業省, セルダン農業学校
	体育	1	青年文化スポーツ省, ユース・センター
	水泳	1	〃
フィリピン 21名	バスケット・ボール・コーチ	1	マレーシア各州バスケットボール協会
	稲作	2	大統領府地域社会開発庁
	野菜栽培	1	〃
	果樹	2	〃
	養蚕	2	〃
	椎茸栽培	3	〃
	農業協同組合	2	〃
	林業	3	〃
	竹細工	2	〃
窯業	1	〃	

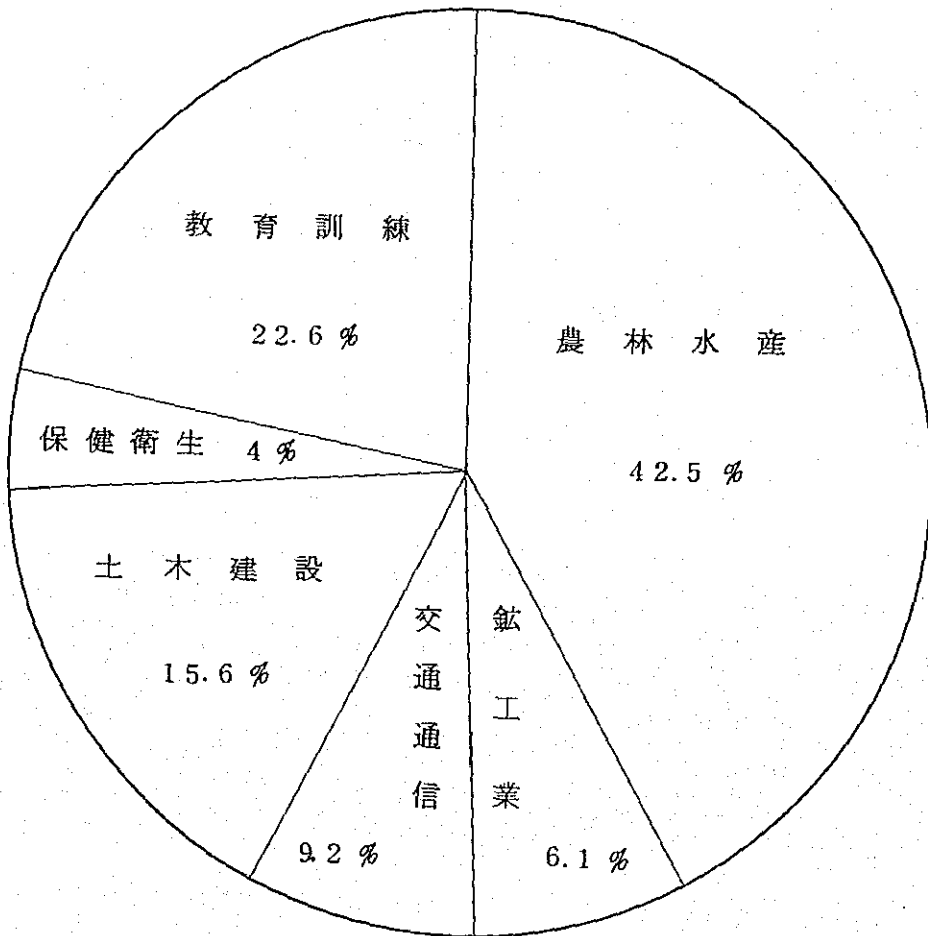
業 務 内 容
ヱエンチャン, ルアンブラバン, バクセの各放送局において送信業務にあたる。
テレタイプの維持管理及び修理
ヱエンチャンは都市計画の基礎となるべき市街図の作成
官庁建物の設計及びルアンブラバン, タクク, サバナケット, バクセにて道路測量に従事
ヱエンチャンにて上水道施設の運営, 維持管理に当る
日本の技術援助で敷設されたヱエンチャン市内水道の各戸引込み工事
官庁建物の設計及び建築家の着想を図面化するドラフトマンとして勤務
サバナケット病院にて外科医師の助手
ヱエンチャン市内にて官吏を対象に日本語, 日本文化の教授
警察学校, 体育教師養成学校, ヱエンチャン柔道クラブにて柔道の指導
生花, 礼法, 料理指導等家政面における指導
バレーボール, 体育一般の指導
セルダン農業学校にて野菜栽培の技術指導
セルダン農業機械訓練センターにて指導
サバ州西岸地域における農業普及および稲作指導
ベナン及びクアラトレンガヌにて漁具の操作, 漁業資源調査, 近代漁法指導
マラヤ大学にて日本語指導
セルダン農業学校にて数学と算盤の教育
水泳, 体操, 陸上, 柔道のコーチ
一般青少年の水泳指導
マレーシア各州にてマレーシア人にバスケットボールを訓練し, コーチの養成にあたる
北部ルソン・カリंगा・アバヤオ州及びベンゲット州地区における日本式稲作指導
北部ルソン・ベンゲット州におけるキャベツ, トマト, 馬鈴薯等の増産及び採種の指導
北部ルソン・マウンテイン州における果物の栽培, 病虫害予防, 乾期栽培の指導
ベンゲット州で養蚕業の開発
マウンテイン州の高原での椎茸の実験的栽培
ベンゲット州における農協全般特にマーケティングの指導, 農業関係全般の管理
ベンゲット州で森林資源の確保, 洪水対策, 水資源の確保のための植林及び森林保護
ベンゲット州及びタルラック州における農民への竹細工の指導
パンガシナン州における窯業指導

国名	業種		勤務先
フィリピン 21名	土木	3	大統領府地域社会開発庁
ケニア 20名	農地測量	2	工業省キスム道路部
	漁業	3	観光・生物省, 水産局
	漁業統計	1	〃
	淡水水産加工	1	〃
	自動車整備	1	林野庁ニエリ営林署
	電気	1	労働省国家青年開発隊ナイロビ中央訓練作業センター
	建設機械	2	〃
	工作機械	1	労働省国家青年開発隊中央訓練作業センター
	車輛電装	1	〃
	車輛整備	5	〃
	司書	1 (1)	観光・生物省, 水産局
体育	1	労働省国家青年開発隊ギルギル基礎訓練所	
モロッコ 6名	稲作	1	米作技術試験農場
	養蚕	1	養蚕中央研究所
	中小水利設計	1	農業農地改革省
	中小水利測量	2	〃
森林測量	1	〃	
タンザニア 30名	園芸・菜園	6	農林省及び地方行政庁
	洋裁指導	24 (2)	社会開発文化省
合計		182(2)	

業務内容
北部ルソン・カリंगा・アバヤオ州, ベンゲット州における小規模灌漑と支線道路, 歩橋の修理架設指導
国家開発計画にもとづく測量の現地指導
ケニア近海漁業開発計画に関連して最近建造した8トンの漁船で, えびトロール漁業, 延縄漁業, 必要な餌を取るための棒受網の試験的漁業に従事し, 現地の乗組員の指導にあたる。
水産局にて漁獲高算定の業務に従事し, 更に現地職員に統計収集の指導
近代的水揚げ場の設計建造, 海水産物卸売市場の設置につきケニア政府に勧告する業務も行なう。
政府及び地方職員に対する自動車類, 各種運搬具, 機械設備の修理, 維持の指導
ナイロビ市にて電気施設据付修理と技術指導
ナイロビ市にて建設機械の維持修理と技術指導
旋盤及び組立作業の指導
ギルギル, モンバナ, ヤタの訓練所にてキャタピラー, グレーダー, ジープ, 乗用車, ディーゼル発電機等の維持修理に当る
大型車輛整備, 土木建設機械の維持・修理
モンバサ水産局本部図書館にて水産図書, 資料の整備及び水産局秘書業務
基礎体力の養成とスポーツ全般の指導
ラバトにおいて稲作の現地指導に従事
ラバトにおいて近代的養蚕の指導と普及に従事
ラバトにおいて貯水池の位置決定調査水源からの引水工事堀抜井戸の活用等の計画立案に携わる
ラバトにおいて現地測量及び下水道溝渠の設計とその指導
マルホセイマ地区で現地測量及びその地図作製
蔬菜および園芸の指導に当る
タンザニア国各地社会開発センターにて現地婦人に対する洋裁指導

8. 派遣隊員業種区分表

昭和42年9月30日現在



9. む す び

本事業が発足して漸く3年目に入ったわけであります。過去2カ年の実績を冷静に謙虚に反省し、受入国の評価、類似事業を行っている国々がどのような受けとりかたをしているか、どのように評価しているかを我々は考えなければなりません。

本年4月西ドイツ・ボンにおいて西独国会議長の招聘した「低開発国援助17カ国会議」の席上、日本青年海外協力隊の行なり技術協力活動が非常に効果的であり、他国の奉仕隊も日本に範を取るべきであるとの発言や、東南アジアは日本に任せるべきだという意見まで出され各国に異常な反響を与えたということであります。

また、第55国会衆議院本会議において総理の施政方針演説に対する代表質問で、竹入義勝議員の低開発国の開発と青年の果たす役割に関する質疑に対して、総理大臣は「ただいま青年海外協力隊を毎年派遣している。この上とも私どももこれを強化し、アジア・アフリカ諸国に積極的に連帯をとりたい……」と答え、本事業の推進に熱意をもった発言をされたのであります。

現在我国の経済協力・技術協力の重要性が力説され、日本青年海外協力隊に関する評価が期せずして国の内外から起った事について、本事業に携わる者としてまことに喜びに存じております。

不十分ではありますが、この協力隊資料が本事業の理解の一助にもなれば幸いです。

